

## 第48回学術集会レポート表彰式

旧・研究教育委員会委員長

森内浩幸

賞の内容について説明させていただきます。Young Investigator Award は学術集会に出された演題の中で、筆頭著者が翌年4月の時点で40歳未満であり、まだ本賞を受賞したことのない会員から、優れた研究を行い将来性の高い3名を選んでおります。昨年の第47回学術集会からは、最終選考を学術集会における発表と質疑を踏まえて、全ての理事と評議員が審査員となって行うことになりました。ただし、Pediatric Academic Societies (PAS) 年次集会での発表者を日本小児科学会へ推薦する締切日が本学術集会の開催よりも前になるため、本年からはさらにYIA候補者の中から英語での発表能力などを示す資料を元に1名のみは研究教育委員会で事前に選出し、自動的にYIA受賞者の一人とし、残りの2名を学術集会当日の発表を受けて選出することになりました。

受賞者へは副賞として、Asian Society for Pediatric Research (ASPR) などの国際学会に参加し研究内容を発表するための補助費として、10万円を贈呈いたします。なお、事前に選出したYIA受賞者がPASへの推薦を受けることができた場合には、本学会からの副賞は出ません。



### YIA 受賞者 3名

本学会の将来を背負って立つ頼もしい面々です。左から、内藤 幸子先生、江原佳史先生、堀場 千尋先生、堤 裕幸前理事長です。



内藤 幸子（ないとう さちこ）先生（千葉大学大学院医学研究院小児病態学）は「13 価肺炎球菌結合型ワクチン導入後の小児市中肺炎罹患率および肺炎球菌性肺炎に関する検討」で YIA を受賞しました。事前の書類審査によって、研究内容とともに高い英語発表能力が評価されて選出されました。素晴らしい研究成果を是非世界に向けて発信してほしいと思います。

江原 佳史（えばら よしふみ）先生（慶應義塾大学医学部感染症学教室）は「B 群溶血性レンサ球菌に対する  $\beta$  ラクタム薬と GM の併用効果は細胞内への GM 取り込みによる」で YIA を受賞しました。多くの臨床医が疑問に思っていたことについて、基礎医学的なアプローチで明解な答えを出してくれました。聴衆の多くがウンウンと頷きながら聴き入っておりました。

堀場 千尋（ほりば かずひろ）先生（名古屋大学大学院小児科学）は「小児血流感染症における病原微生物診断への次世代シーケンサーの応用」で YIA を受賞しました。多くの小児科医が診療現場でフラストレーションとして感じていることに、最先端の技術で挑んでくれました。今後のさらなる発展に期待します。

#### YIA 受賞者のプロフィール

次に、昨年度から新たに設定されたポスター賞の表彰を行います。こちらは YIA とは異なって年齢制限はなく、ポスターセッションの活性化や、YIA とは異なった観点から小児感染症研究に勤しむ会員を鼓舞することを目的としています。選出方法は以下の通りです。まず学術集会ポスター発表に登録された演題の中から、研究教育委員会が 10 題の候補演題を事前に選出しました。学術集会初日、全ての理事および評議員が審査員となって、実際にポスターを閲覧して投票を行い、集計後得点の高かった以下の 5 名を選出しました。

以下、本年度の受賞者と演題名です。

「パレコウイルス 3 型が関連した小児の筋痛症 3 例」

岡山大学小児急性疾患学 藤井 洋輔（ふじい ようすけ）先生

「麻疹ウイルス H タンパクの 5 つの主要な抗原エпитープ」

国立感染症研究所ウイルス第三部 竹田 誠（たけだ まこと）先生

「再興する百日咳の制御に向けた新規感染防御抗原の探索研究」

大阪大学微生物病研究所分子細菌学分野 鈴木 孝一郎（すずき こういちろう）先生



### 第2回ポスター賞受賞の4名

左から藤井 洋輔先生、鈴木 孝一朗先生、越智 史博先生、有山 雄太先生、堤前理事長です。  
(残念ながら竹田 誠先生はご欠席でした。)

「コッホ現象陽性時の確認検査として胃液 PCR 検査を施行すると偽陽性となる可能性がある」  
愛媛大学大学院医学系研究科分子・機能領域小児科学講座 越智 史博 (おち ふみひろ) 先生

「肺炎球菌結合型ワクチン導入後の侵襲性肺炎球菌感染症の血清型」

東京都立小児総合医療センター総合診療科 有山 雄太 (ありやま ゆうた) 先生

最後に、研究プロジェクト助成金の説明を致します。これは小児感染症・免疫にかかわる研究を奨励し援助することを目的に、平成 18 年度から開始しました。当初は研究奨励賞という名称でしたが、2011 年より名称変更しております。特に研究費の捻出が困難な一般病院や開業医の先生方の応募を強く歓迎し募集しているもので、受賞者には 40 万円の研究助成金が授与されます。義務として奨励金使途およびそれによる研究成果の概要を、学会誌において報告し、また研究成果は本学会学術集会においても発表していただきます。

庄司 健介 (しょうじ けんすけ) 先生 (国立成育医療研究センター) は「小児重症患者におけるメロペネムの薬物動態に関する検討」で、研究プロジェクト助成金を獲得されました。体外循環が必要とされる重症患者における抗菌薬の動態が不明であることは、本当に大きな問題です。この分野で研鑽を積んでこられた受賞者が、有用なデータを出してくれることを期待します。

河野 好彦 (かわの よしひこ) 先生 (岡崎市民病院) は「川崎病におけるヒトヘルペスウイルス 6 型・7 型の再活性化についての検討」で、研究プロジェクト助成金を獲得されました。日本ならではの成果が期待される臨床研究テーマです。興味深い結果が得られることを期待しています。



### 研究プロジェクト助成金受賞者2名

左から、庄司 健介先生、河野 好彦先生、堤前理事長です。

2017年10月21日～22日に金沢で開催される学術集会でも、きっとこれまで以上に素晴らしい演題が発表されることでしょう。YIAやポスター賞を目指し、奮って素晴らしい演題をお出してください。また研究プロジェクト助成金にも、どしどしご応募ください。若手会員の活躍が本学会を発展させ、子どもたちの健やかな未来を切り開きます。

またピカピカの若手会員を次回も皆さんにご紹介できることと思います。金沢でお会いしましょう！

最後に私事になりますが、10年もの長きにわたって務めてきた研究教育委員会委員長のお役目を辞することに致しました。本委員会の活動が多岐にわたるようになりましたので、研究委員会と教育委員会の2つに分け、新たなメンバーを加えて刷新したほうがよいと考えたからです。両委員会にはそれぞれ木村宏先生（名古屋大学大学院医学系研究科ウイルス学）と齋藤昭彦先生（新潟大学医歯学総合病院小児科）が委員長となり、さらに充実した活動をしていくことになります。両委員会の活動に、今後もさらさら一層のご支援を賜りますようお願い致しますとともに、これまで浅学非才の私を支えて下さいました多くの会員の皆様に御礼申し上げます。本当にありがとうございました！